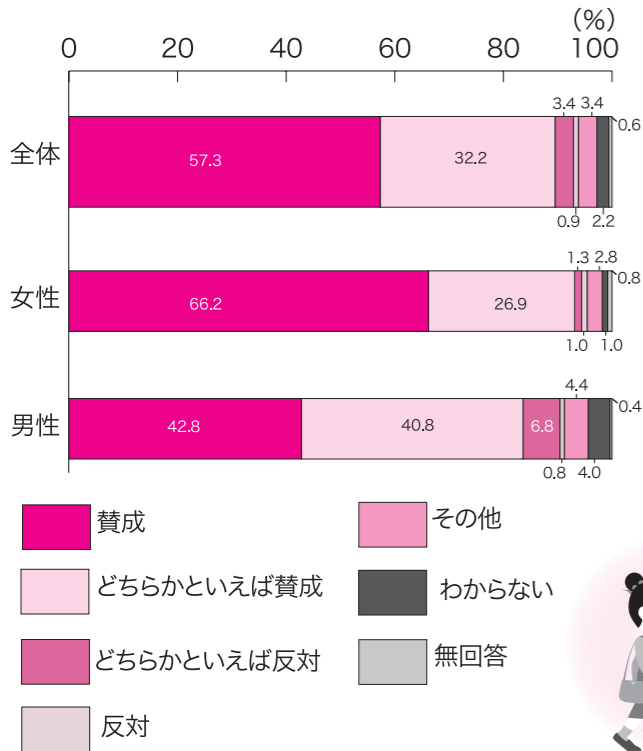


1. 人権が尊重され、誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくり
2. 良好な環境が整った、快適で安全・安心なまちづくり
3. 活力ある産業に満ちた、にぎわいあふれるまちづくり
4. 明日の彦根市を担う人を育(はぐく)むまちづくり
5. 人とひととの交流をひろげ、市民文化を創造するまちづくり

男女共同参画社会の実現に向けて 特集

図1 家事・育児・介護などを男女で分担するという考え方について



「家事・育児・介護などを男女で分担する」という考え方について」の問いに、全体では、「賛成」が約9割という結果でした(図1)。

男女に関係なく、育児休業・介護休業が自由に平等にとれるようになると良いなと思う。(30代・女性)



「男女で分担する」約9割が肯定

最近では、育児に協力的な男性も増えました。しかし現実には、「やりたくてもやれない」という長時間労働の実態も明らかになっています。社会全体が、長時間労働が当たり前の働き方を見直し、家事・育児・介護などを男女で分担したり、地域社会で子育てや介護を支援したりするなど、多様な生き方ができる社会にする必要があります。



男女共同参画基本法が行われて10年がたちました。国は、男女共同参画を21世紀

の最重要課題としています。しかし、この10年の間、家庭や地域社会、職場で男女共

同参画は進んだのでしょうか。彦根市では、昨年の9月

▲内閣府男女共同参画局(編)「平成21年版男女共同参画白書」(部分)

から10月にかけて、18歳以上の市民1,500人を対象に「男女共同参画社会に関する市民意識調査」を実施しました。

この調査結果を参考にしながら、彦根市では今後進めていくべき施策についての計画を策定します。

調査結果からは、男女共同参画についての理解がまだまだじゅうぶんでないことも明らかになりました。

男女共同参画は、行政だけが取り組むべき課題ではありません。市民や事業所の皆さんと協働して行うものです。

なぜ男女共同参画社会が求められているのか、私たち一人ひとりができることは何か、アンケートに寄せられた市民の皆さんの意見をもとに考えていきたいと思います。

問い合わせ先
市民交流課 ☎ 30-6113番、FAX 22-1398番

男と女は身体に違いがあり、能力が違うのでは？(30代・男性)



男女共同参画は、「身体の違い」を否定するものではありません。しかし、身体の違いを理由にできないことが、どのくらいあるのでしょうか。力仕事でも機械化が進んでいるので、体力差が問題になることは少ないのではないのでしょうか。

妊娠・出産は女性にしかできませんが、妊娠中のサポートや子育ては男性もできます。夫が育児に参加している家庭ほど、第2子を出産している割合が高いというデータもあります。むしろ「女だから」「男だから」と決めつけて個人の能力をじゅうぶんにいかせていないのが日本の現状です。

男に向いているもの、女に向いているものがあると思う。(60代・女性)



リーダーシップや決断力のある女性もいれば、サポートが得意な男性もいます。宇宙飛行士、看護師、スポーツ選手など男性も女性もいるような場面で活躍しています。

自治会の会議は女性が準備・接待・片付けが当たり前。男性が会議を進める役割になっている。女性の意識改革も必要だと思いが、歴史的な男性優位社会で作り上げられた意識の変革は時間がかかる。(50代・女性)



住みよいまちづくりを目指す気持ちはみんな同じです。女性が自分の考えを言うこと、自治会の意思決定の場へ参画することは大切なことです。まず、一人ひとりの意見を平等に取り入れることができる仕組みや意識改革が必要です。自治会活動が活発なところは、だれでも意見を言えて、参加する雰囲気ができています。